

## 第4学年 国語科学習指導略案

教科等	国語科	単元名	調べて話そう 5年生調査隊	本時	全10時間扱いの8時間目
学級	4年4組	授業者	野島 涼子	教室等	3階 4年4組教室

### <本時の指導>

<b>&lt;本時のねらい&gt;</b> よりよい発表にするために相互評価をし、大事なことがよく伝わるように話し方を工夫することができる。	
	<p>主な学習活動【4つの視点】 主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>1. 前時までの学習を振り返る。【発見】 T:話し方をパワーアップするための7つのポイントを確認しよう。 T:今日のめあてを確認しましょう。</p> <p>2. 本時のめあての中で、自分たちが大切にしたいことを決めて発表の練習をする。 T:聞いているグループは、7つのポイントを確認しながらアドバイスをしなさい。【対話】 C:見てほしいところは指をさしていました。 C:聞いかけのあと、相手の反応を見ようとしていました。 C:資料を見せたあと、時間を少しとるとよいと思いました。</p> <p>3. よりよい発表になるように原稿に書き足したり、練習したりする。[パワーアップタイム] 【表現】 T:アドバイスを基にしてもらったことを、原稿に赤で書き足してきましょう。</p> <p>4. アドバイスを基に、何に気を付けたいかをグループで話し合い決定する。【決定】 T:アドバイスを基に、発表で気を付けるポイントを原稿に書き足しましょう。 C:指を指す場所をしっかりと決めよう。 C:ここは、間を取ると、大切な言葉が聞こえやすいね。</p> <p>6. 学習の振り返りをする。 T:次の時間は発表です。調べたことがよく伝わるように話しましょう。</p>
導入	<p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□相互評価のための評価基準の確認を明確にする。 □本時では、「話す内容」ではなく、「話し方」の工夫を考えることを押さえる。</p>
展開	<p>□基準に沿って評価ができるよう、7つの基準を書いたワークシートを用意する。</p> <p>☆「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している（行動、ワークシート）</p> <p>○話題設定の工夫 知りたいことのテーマを「高学年になるにあたって知っておきたいこと」とする。学校生活への変化に興味や期待をもって関わることで、「自分ごと」として受け止めやすくする。5年生にアンケートを取ることで、先輩の話として、現実味をもたせる。</p> <p>○交流の目的と視点の明確化 「7つのポイントを意識したアドバイスを意識させる」「今日の気付きが分かるように赤で気を付けたいポイントを書き加えさせる。」 ※焦点化・視覚化</p>
終末	<p>□振り返りの視点を示す。 「前回の練習と比べて」「さらにがんばりたいこと」「次回の発表で生かしたいこと」</p>

### 【板書計画】

調べて話そう、5年生調査隊

めあて 大事なことが聞き手によく伝わる  
よつに話し方を工夫しよう。

○今日のながれ

① 発表の練習

② 発表

③ アドバイスタイム

④ パワーアップタイム

⑤ ふり返り

⑥ さらにがんばりたいところ

★話し方ポイント

- ① 全体を見渡してから話し始めよう。
- ② 資料を見てもらう時間をとろう。
- ③ 見てほしいところは指をさそう。
- ④ 聞いかけの後は、反応を見よう。
- ⑤ 伝えたいことはゆつくり話そう。
- ⑥ 聞き取りづらい言葉は強調して話そう。
- ⑦ 聞いている人を引きつけるジェスチャーをしよう。

① ともだちのかんがえのいところをえよう

わたくしは、

かんがえをうけて、ひろげよう。

はなすときは、

### 【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

### 話題設定の工夫

本単元では、「高学年になるにあたって知っておきたいこと」を話題として設定する。進級に伴って、立場や役割が変わり、委員会活動、宿泊学習など、進級による変化を期待している児童が多くいる。そこで、5年生を対象にアンケートを実施し、自分自身の疑問や関心を引き出すことで、学習内容をより身近に感じられるようにする。

### 「対話」のモデルの共有

聞き手にとって分かりやすい話し方について、モデル動画をを用いて共有する。モデル動画では、今回の学習の中で大切にしていきたいと考える「強弱」「間の取り方」「視線」「相手の反応を見る」「身ぶり手ぶり」を、上手な発表のポイントとして提示し、その後の発表の際に意識できるようにする。また、その基準をもとに相互評価を行うことで、より聞き手にとって分かりやすい発表にしていく。ただし、学習を進める中で出てきた児童が見付けたポイントも追加していく。

(2) 「学び合う」ための手立て

### 意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

発表グループの人数を3～4人に設定し、一人当たりの話す量を確保する。

相互評価についてはそれぞれペアグループを設定し、発表するグループと発表を評価するグループの2つの役割をローテーションして、様々な立場が経験できるようにする。